

ほぼ月刊 桑名歴史こぼなし

～創刊にあたって～

編集・発行：©社会福祉法人桑名市社会福祉協議会 TEL0594-22-8311(文化スポーツ振興課)

新たな社協がはじまります

平成31(2019)年4月1日、桑名市社会福祉協議会は、桑名市文化・スポーツ振興公社の事業を引き継ぎ、**大山田コミュニティプラザ・スター21・陽だまりの丘複合施設ぽかぽか・六華苑・住吉浦休憩施設**の5施設の運営を担うこととなりました。

同公社は平成6(1994)年4月1日の設立から本年3月31日の解散まで、桑名市の文化・スポーツの向上と振興を図ってまいりましたが、桑名市社会福祉協議会が事業を引き継ぐことで、生涯学習分野までも含め、より一層充実した地域福祉の推進が可能となりました。

この度、「**ほぼ月刊桑名歴史こぼなし**」を創刊し、今後も適宜発行することで、桑名の文化とスポーツに関する記事を紹介し、広く桑名の魅力を紹介していきたいと考えています。

これからの新たな社協の取り組みにご期待ください。



ほぼ月刊 桑名歴史こぼなし

Vol.1(創刊号) 2019年4月1日発行

編集・発行: ©社会福祉法人桑名市社会福祉協議会 TEL0594-22-8311(文化スポーツ振興課)

＜NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」の舞台六華苑＞

平成31(2019)年1月6日に放送が開始されたNHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」では、六華苑がロケ地となっており、作品の中では三島弥太郎(1867～1919)の屋敷として第1回「夜明け前」、第3回「冒険世界」(1月20日放送)、第7回「おかしな二人」(2月17日放送)に登場しました。これらは平成30(2018)年5月にわずか一日で撮影されました。

弥太郎の父三島通庸(みちつね、1835～1888)は旧薩摩藩の出身で、山形県・福島県・栃木県の各県令や警視總監を歴任し、子爵を授かった華族でした。弥太郎はその長男で、米国留学を経て貴族院議員、横浜正金銀行(現在の三菱UFJ銀行)頭取、日本銀行総裁などを歴任し、その屋敷は東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町777(東京都新宿区千駄ヶ谷)にありました。

第1回では弥太郎が自邸で主催するパーティーに弟三島弥彦(1886～1954)率いるスポーツ愛好団体「天狗倶楽部」のメンバーたちが乱入しました。弥彦は東京大学在学中の明治45(1912)年にストックホルムオリンピックに陸上競技(短距離)代表として出場し、開会式では日本選手団の旗手を務めました。とは言っても、日本はこれがオリンピック初参加であったので、予算も少なく、参加したのは弥彦とマラソン代表の金栗四三(1891～1983)のわずか2名でした。

＜駅伝発祥の地 桑名＞

現在、世界各地で開催されている駅伝競走は、日本発祥のスポーツで、大正6(1917)年4月27日から29日にかけて開催された「東海道駅伝徒歩競争」がその始まりとされます。東京の上野公園で開催された東京奠都(てんと、都を定めること)五十年記念博覧会に合わせて企画されたもので、京都三条大橋から博覧会正面玄関までの514kmを昼夜兼行、わずか3日間で走り抜けるという驚くべき競技でした。

コースは東海道を23区に分けたことから、当然桑名も通過し、第6区(四日市～長島、17.5km)と第7区(長島～名古屋、26km)の中継地点が長島に設けられました。当時は伊勢大橋も尾張大橋もないことから木曾三川は船によって渡河し、待機時間を設けることで運航による時差がなくなるよう調整しました。

出場は関東組と関西組の2チームで、関東組のアンカーを務めたのが池部四三(養子縁組により改姓)でした。関東組が第一高等学校(現在の東京大学)、東京高等師範学校(現在の筑波大学)などの大学生を中心に構成されていたのに対し、関西組は愛知県立第一中学校(現在の愛知県立旭丘高等学校)の生徒の他、卒業生や職員も含まれており、アンカーは52歳だったそうです。

27日午後2時に京都三条大橋をスタートし、29日午前11時34分に関東組がゴールして勝利しました。関西組のゴールはその1時間24分後のことでした。京都三条大橋と東京上野不忍池には駅伝発祥の地であることを示す「駅伝の碑」が平成14(2002)年5月1日に日本陸上競技連盟によって建立されています。意外にも桑名は駅伝発祥の地のひとつということになるのです。